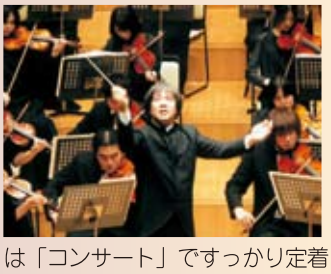
『円形劇場』で音楽を

今年は北京オリンピックがありますね。平和の祭典といわれて久しいですが、近年はトーチに燈った聖なる光よりもそこから立ち昇る煙のほうが目立つような気がしてなりません。
「開催の栄誉と責任はその都市に委ねられる」というオリンピック憲章の言葉通り、国の問題を超えて北京市というまちにアスリートの華が咲き競うことだけを今から心待ちにしているのですが。
いまから44年前の1964年。東京も今年の北京のようであったかも知れません。
戦後を清算して一気に近代化し、先進国の仲間入りをしたい。
世界中からのお客様に恥ずかしくないおもてなしを。そんな思いは街を瞬く間に変貌させてゆきました。
首都高などの道路整備はもちろん、国立競技場、代々木競技場、駒沢体育館などのオリンピック施設が続々と建設されました。
東京オリンピックで初めて五輪種目となった柔道の舞台、日本武道館もできました。
皆さんの中には「武道館」と聞いてコンサート会場では？と思われる方もいらっしゃるでしょう。



1965年、レオポルド　ストコフスキーの指揮する日本フィルハーモニーが初めてコンサートに使用して以来、66年のビートルズの来日公演や日本の代表的なミュージシャンが音楽の殿堂として使用するなど「武道館」は「コンサート」ですっかり定着した感があります。
コンサート会場のあり方は今や実に様々になっているのですね。
音響を最優先にした音楽専用ホール。武道館や横浜アリーナのように、より大勢で音楽を共有しようとするもの。講演会や地域の人々の発表の場としても使える多目的ホールなど。
本来の目的を越えた使われ方に違和感を覚えない人も増えてきました。
音楽専用でスタートしたはずのサントリーホールでファッションショーが行われたこともあります。
ベルリンフィルやボストンシンフォニー、日本では新日本フィルなどは、それぞれの町の郊外や軽井沢の杜の特設ステージで野外コンサートを催すこともあります。
子供達やおじいちゃん、おばあちゃん、家族みんなで芝生を客席にのんびりと音楽を楽しむ。
地球そのものが青天井のコンサートホールというわけです。
舞台がここにあって客席はそこにある。これについては古代ギリシャまで遡らなければなりません。
すり鉢を立てに割った半月状の底に舞台、その上方へ取り囲むように客席。
それぞれの立ち位置、着座位置、演ずる者と見るものを明確に分けるようになったのもこの頃と言われています。
コンサート会場もかつてはお客様のすべてがステージを見おろす形にするのが基本だったようです。ホールの良い響きはステージの中央から上方に向かってゆくのです。
でも、ホールが多目的になってくると講演会や安全上の理由からステージの高さはどんどん高くなり、演奏者とお客様の位置が逆転してしまいました。

オーケストラ指揮者
横山俊充（よこやま としみつ）

札幌南高校卒業後、桐朋学園大学オーケストラ研究生として、小沢征爾、秋山和慶の各氏に師事。小泉和裕氏に師事。
これまでに、東京都交響楽団、札幌交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、広島交響楽団、九州交響楽団、都響メンバーによる東京メトロポリタン室内管弦楽団などで指揮。
他、関西大学、一橋大学、中央大学、東京薬科大学や、毘沙門天管弦楽団、横浜シティーフィル、藤沢市民交響楽団、アモルファス合奏団、湘南合奏団などでも指導、客演。
徳島文理大学音楽学部に於いて、オーケストラ並びに指揮法を指導。
日向岡在住。

あくまでも主役はお客様なのです。それが証拠にクラシックの演奏者は客席よりも一段高いステージに立つこともあって、聞いていただく皆様に失礼のないよう、敬意の気持ちを表すために燕尾服を着用しています。「あれが堅苦しい」とは思わないで下さいね。
オリンピックの開会式をご覧になれば、今も円形劇場の考えが息づいているのをお分かりいただけると思います。少し見おろす目線で、響きが良く、楽しみを共有できる空間。しかも自然のなかで。
平塚にも古代ローマのコロッセウムを彷彿とさせる場所があります。
『平塚競輪場』です。
ここでオーケストラの演奏をしてみたいものです。
ベートーヴェン、ブラームス・・・。
客席とオーケストラとの間に、どんな音楽の響きが生まれるのだろうと想像しています。
市民のために。競輪はもとよりあらゆる表現を披露できる多目的円形劇場。
『湘南コロシアム』。
開演のベルの鳴る日が来ることを待っています。

横山俊充氏指揮による演奏会予定

7月27日（日）	14:00	調布グリーンホール　毘沙門天管弦楽団 芥川也寸志 『交響三章』 ドヴォルザーク 『交響曲第七番』他
10月13日（月・祝）	14:00	東京オペラシティ・リサイタルホール　アモルファス合奏団 武満徹 『三つの映画音楽』 チャイコフスキー 『フィレンツェの思い出』他

200年の歴史を誇るスイスの名門オーケストラがいよいよ初来日！

ルツェルン交響楽団

2008年6/28［土］18:00開演（17:30開場）　平塚市民センターホール

指　　揮：オラリー・エルツ
ピ ア ノ：ニコライ・トカレフ

「ショパン：ピアノ協奏曲 第2番 ヘ短調 op. 21」
「ブラームス：交響曲第1番ハ短調 op. 68」ほか

料　金　S ¥8,500　A ¥6,500　B ¥4,000（税込）

お問合わせ　（財）平塚市文化財団　0463-32-2237　　主　催　平塚市・（財）平塚市文化財団・茅ヶ崎市楽友協会